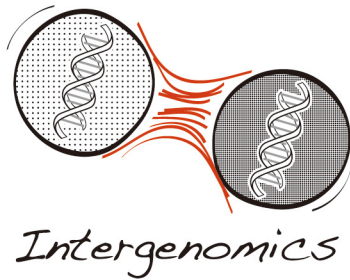


オンラインでも開催！

第 51 回

インターゲノミクス セミナー



神戸大学農学部インターゲノミクス研究会

神戸大学大学院・農学研究科
インターゲノミクス研究会 主催
(若手研究者育成支援経費)

日時：10月12日（月）15時10分より 場所：農学部 B401

ZOOM: <https://kobe-u-ac-jp.zoom.us/j/85713598875?pwd=T1IGSkldXlCdUHVd2N3bFBwT1BGZz09>

「コロナウイルスだけがウイルスじゃないのです」



15:10 はじめに

15:15 家畜に病気を起こすアルボウイルス

白藤 浩明 先生（農研機構 動物衛生研究部門）

要旨内容:アルボウイルス(arthropod-borne virus: arbovirus)は、蚊、マダニ、ヌカカなどの節足動物の体内で増殖し、それらの吸血活動によって脊椎動物に伝播されるウイルスの総称である。ヒトに病気を起こすアルボウイルスとして、蚊が媒介するデングウイルスや日本脳炎ウイルス、マダニが媒介するSFTSウイルスなどが広く知られているが、家畜に感染して病気を起こすアルボウイルスも多数存在し、わが国では1950年代から被害が確認されている。演者らは、おもに牛に感染するアルボウイルスの調査・研究を行っており、その対象は異常産を引き起こすアカバネウイルス、アイノウイルス(いずれもブニヤウイルス科オルソブニヤウイルス属)やチュウザンウイルス(レオウイルス科オルビウイルス属)、発熱を引き起こす流行性出血病ウイルス、ブルータングウイルス(いずれもレオウイルス科オルビウイルス属)、牛流行熱ウイルス(ラブドウイルス科エフェメロウイルス属)などである。加えて、1999年以降はアカバネウイルスやアイノウイルスに近縁なピートンウイルス、サシュペリウイルス、シャモンダウイルスや、チュウザンウイルスに近縁なディアギュラウイルスが分離されており、いずれも牛異常産の原因となることが疑われている。今回は、これらのアルボウイルスの特徴や牛における症例について紹介するとともに、演者らが実施したアルボウイルスのゲノム解析に関する研究内容を紹介する。

世話人:松尾 栄子

16:15～ 総合討論

お問い合わせ 松尾 栄子（農学研究科 資源生命科学専攻 感染症制御学研究分野）
TEL: 078-803-5818 E-mail: eiko_matsuo@amethyst.kobe-u.ac.jp